

鳥取県立中央病院 広報誌

# 赤れんが

## 第20号

- 新手術法
- 特集「患者支援」
- トピックス
- 診療案内他

### <理念>

質の高い医療を提供し、患者の生命と健康を守ります

### <基本方針>

- 1 私たちは、急性期の高度医療と救急医療を提供します
- 2 私たちは、研修・研鑽に励み、患者に信頼される医療を提供します
- 3 私たちは、他の医療機関との連携を強化し、地域医療の向上に努めます
- 4 私たちは、地域に期待される医療従事者を育成します
- 5 私たちは、健全な経営基盤の確立を目指します

### <急性期病院の役割>

当院は、地域の急性期の患者様を診療させていただき役割があります。急性期の専門的治療が終わり、病状が安定された方は、担当の医師が判断し、責任を持ってお近くの診療所、かかりつけの医師へご紹介いたします。日頃の治療や健康状態を見守る大切な診療所と連携を取り合いますので、ご安心ください。急性期の患者様が一人でも多く外来受診できますように、どうぞ、ご理解とご協力をお願いいたします。



耐震補強完了

### 「山陰地方で初めての低侵襲心臓手術始まる」

呼吸器外科・心臓血管外科

同

部長 森本啓介  
医師 宮坂成人

低侵襲心臓手術(Minimally Invasive Cardiac Surgery: ミニマル手術)

心臓手術（特に心臓弁膜症などに対する手術）では、通常、胸骨正中切開といって、胸骨を縦に観音開きに切開して手術を行います。この場合、喉元の下からみぞおちにかけての前胸部に約20〜25cmの傷が残ります。また、切開した胸骨をステンレスの針金で結わえて閉じますが、まれにこれがうまく治癒しなかったり、その部分に感染を起して致命傷になることもあります。さらに胸骨が完全に癒合するまで、通常2〜3ヶ月くらいは重労働や激しい運動を控える必要があります。

これに対して、胸骨を切らずに右側の前側胸部を約7〜10cm程度小さく切開して胸腔鏡を使って肋骨の間から行う低侵襲心臓手術(MICS)が、最近、海外あるいは日本の一部の限られた施設で行われつつあります。

当院の心臓血管外科でも、昨年より準備を始め、本年1月に、70歳代の僧帽弁膜症の患者さんに対して山陰地方で初めてのこの手術に成功しました。そして、この患者さんは術後10日目に元気に軽快退院されました。この手術は美容上の利点だけな

く、従来の胸骨を切る手術に比べて出血が少ないために回復が早く、退院後早期に日常生活に戻ることが可能になります。このため高齢者や合併症を持った方などに対して有利となる可能性が高く、これまで心臓の持病があるもの高齢であるために手術治療を躊躇しておられた方などにとって朗報であると言えます。心臓の手術は一般に大手術（侵襲度の高い手術）であるため、私たちは少しでも低侵襲にする努力をしていかなければならないと考えています。

なお、この手術には専用の手術器具を用い、さらに、通常よりも小さな視野で行うために、執刀医は本来の標準的な手術手技に習熟した上で、この手術器具の操作に慣れて、安全性と手術の質を低下させることなく、この手術法の長所を生かして行うことが重要です。そして、手術を担当する医師のみならず、麻酔医、看護師および臨床工学技士のチームとして力を合わせる事が大切となります。

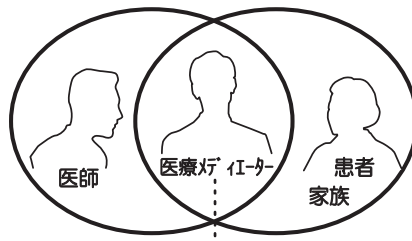
これからも、より多くの心臓病の患者さんに、年齢や合併症などの制限なく手術を受けて最終的に元気で長生きしていただけるよう、私たちも努力を重ねていきたいと思っております。

# 「医療メディエーター」の紹介

医療安全・感染防止対策室 副室長 松岡 真司

皆さんは「医療メディエーター」という言葉をご存じでしょうか。医療メディエーターとは「患者やその家族と医療者が十分に話し合えるような場を中立的な立場で作る、お互いの対話を進める役割を担う者」のことです。そして、この一連の活動を医療メディエーションと呼びます。

医療は、患者・家族の皆様と医療者がお互いの信頼関係のもとに築き上げるものだと言われます。そのためには、対話がとても重要です。



中立な立場

タターの役割を担っています。そして、患者・家族の皆様からの相談を受けて医療者と話し合う場を設定することもあれば、医療者から説明の場への同席を求められることもあります。

医療者の説明に納得がいけない、わからない等の気持ちを持たれた時は、まず、その気持ちを医療者へお伝えください。そして、もし、医療者との直接の対話が難しく感じられた時は、ぜひ医療メディエーターにご相談ください。医療メディエーターは当院の職員ですが、決して医療者側に立つことなく、あくまでも中立的な立場で活動しますので、どうぞご安心ください。

しかし、残念ながら時に、医療者の説明不足や、患者さんが不安で一杯なために説明を聴く心の余裕が無かった等の理由で、お互いの間に誤解が生じ対話が進まないといった状況が発生してしまうことがあります。こうなると、必要な医療を安心して受けていただくことができません。このような状況を解決する手段の一つが、医療メディエーションです。

《医療メディエーターに関するお問い合わせ先》

【窓口】 医療安全相談窓口  
(医療安全・感染防止対策室内(本館2階))

【日時】 月曜日～金曜日  
8:30～16:00

## 特集

# 患者支援

(医療メディエーター・患者サロン)

「サロン あおぞら」が完成しました。



患者の皆様やご家族同士の情報交換や、病気に対する不安や悩みを語り合う場として「患者サロン」は全国的に広がりを見せています。当院でも昨年度からこの患者サロンの整備を行い、この度、完成しました。そして、患者の皆様からいただいたご意見をもとに、このサロンスペースを「サロン あおぞら」と命名しました。

「サロン あおぞら」では、患者同士で不安や悩みを語り合うばかりでなく、隣接した患者図書室と連携して、患者の皆様にご家族が必要とされるさまざまな医療情報を容易に入手できる場所にしたいと考えています。現在、既にごん患者の皆様にご家族を対象としたサロンを開催しており、毎回多くの方が参加され和やかな雰囲気で行っています。興味をお持ちの方は、がん相談支援室までお問い合わせください。

患者図書室がオープンします。

この「サロン あおぞら」前に、患者の皆様にご利用いただける図書室がオープンします。

この図書室では病気にに関する様々な情報を集めていただくことができます。そして、司書ががん相談支援室職員や鳥取県立図書館と協力して、皆様の情報収集をお手伝いします。主に医療に関する本や雑誌、パンフレットを置き、インターネットの利用や医療に関するDVDの視聴もできます。また、気分転換していただけるような読み物や、子どもさん向けの絵本なども置く予定です。

さらに、県立図書館から借り受けた図書もあります。県立図書館の図書は一定期間で入れ替えます。また、県立図書館から取り寄せることもできます。

皆様のご利用をお待ちしております。お気軽にお立ち寄りください。



「サロン あおぞら」  
利用方法

【場所】 本館6階南棟  
オアシス文庫横

【日時】 月曜日～金曜日  
9:00～17:00

利用には手続きが必要です。  
事前に「がん相談支援室」までご連絡ください。

「患者図書室」  
利用方法

【場所】 本館6階南棟

【日時】 月曜日～金曜日  
13:00～16:00

【貸出冊数・期限】  
入院患者 3冊まで、1週間  
外来患者 3冊まで、2週間  
※ 外来患者への貸し出しは  
当院図書に限ります。

貸し出しには、当院の  
診察券が必要です。  
代理として、ご家族の方  
へも貸し出しします。